

令和6年度の予算編成方針

令和6年度予算編成に向けて

摂津市長 森山 一正

本市のまちづくりにおいては、千里丘駅西地区の再開発をはじめ、阪急京都線連続立体交差事業、環境センターの廃炉と跡地活用、とりかいこども園や味生コミュニティーセンターの設置など、今後のまちづくりの発展の基礎となる大型事業が非常に短期間の内に、進んでいくこととなる。加えて、世界的な物価高騰が続く中、しっかりと将来の財政状況を見据えながらも、必要な施策を着実に推し進めていく必要がある。

各部局においては、従来の形に縛られず、ビルド&スクラップの考え方を基本に、見直すべきところは見直し、まちづくりの目標達成に向け、「やる気、元気、本気、勇気」をもって積極的に取り組んでもらいたい。

本年5月に新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に移行し、行動制限が撤廃されたことに伴い、市民活動は徐々に以前の姿に戻りつつあるが、実に3年半にも及んだコロナ禍によって、人々のつながりが如何に大切であるかを痛感させられた。

折しも、2025年大阪・関西万博の開催を控え、令和6年度は、より一層の機運醸成が図られ、大阪における人々の活動が増々活発になることが予想される。万博会場に建設されるリング型の大屋根には、「分断の時代において、つながりを取り戻す」という意味が込められている。本市においても「つながりのまち摂津」の実現に向け、市民のまちに対する愛着や誇りを醸成していきたい。

そのために、令和6年度は、これまで継続して掲げてきた「こども」、「健康」、「安全・安心」の3つの重点テーマを柱としつつ、人々がつながり、賑わい、そして、魅力あふれる摂津のまちづくりを加速させる予算としたい。